

回転寿司にて

成田陽介

成田典子

回転寿司屋のカウンター

寿司を食べている二人。成田陽介は寿司を手でいくタイプである。

典子「見て」

陽介「何」

典子「ほら。向こうの人たち」

陽介「外人の人たち？」

典子「うん」

典子「白人に黒人にアジア系、アフリカ系ぽい人もいる。あの人は日本人かな」

陽介「どうかな。中国の人かも」

典子「多国籍なグループね」

陽介「ああ」

陽介「（カウンターの中の職人さんにオーダー） すいません。コハダ」

典子「なんの人たちかしら」

陽介「なんだろうな」

典子「ツアー客ってわけでもなさそう」

陽介「別にいいだろなんだって」

陽介「外国の人が日本に来てお寿司食べるなんて普通のことだろ」

陽介、コハダを受け取る。

典子「世界中から集まったのね」

陽介「そういう言い方したらそうだけど」

典子「ねえ」

典子「エスパーなんじゃない」

陽介「何が」

典子「あの人たち。エスパーなんじゃない」

陽介「（カウンターの中の職人さんにオーダー） すいません。えんがわとカンパチ」

典子「様々な能力者が世界中からこの町に集まったの」

陽介「なんのために」

典子「わからないけど。何かあるんじゃない。この町に。彼らを引き寄せた何かが」

陽介「ないだろ。こんな町。何もないよ」

典子「一見何もない町ってところがそれっぽいじゃない」

典子「もしくは何か使命を持ってこの町にやってきた」

典子「きっとあの白人の女の人はサイコメトラー」

陽介「何。サイコメトラーって？」

典子「触れただけでその物にまつわる過去の風景が見える能力。あったでしょ。そういうドラマ」

陽介「そんなの大変だろ」

陽介「寿司を手取るたびに風景が浮かぶのかよ」

典子「あのアジア系の人は透視能力。あの黒人の人はサイコキネシスね。手を使わずに物体を動かすの。白人の男の人は何かしら・・・」

陽介「やめろよ」

典子「想像してるだけよ。誰がどういう能力者か。いいじゃない」

陽介「やめろよ。下らない」

陽介「寿司がまずくなる」

典子「お寿司はそんなことでまずくならないわよ」

典子「おいしいもの。お寿司は」

典子「そんなことくらいでお寿司はまずくならない」

典子「そうでしょ」

カンパチを食べる男

典子「どう」

陽介「うまいよ」

終わり